

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画観光振興班	沓澤琢也	0186-62-1251	滞留型観光商品開発支援事業	森吉山麓根森田地区を核にした周辺地域の滞留型観光の推進を図ることを目的とする。	100,000	負担金	①根森田滞留型観光商品開発委員会の開催 6月～2月 6回開催 ②モニターツアーの実施 10/8～10/9 参加者7名 ③体験マニュアルの製作	県北秋田市 根森田滞留型観光商品開発委員会	県内および県外在住者(外国人旅行者含)	平成28年4月1日	モニターツアー参加者のアンケート結果では高評価を得て、マタギ体験などメニューを確立できた。	季節毎のメニューの磨き上げと、受入組織(宿泊施設、体験実施主体)の育成が必要。モニターツアーの結果を踏まえて、ツアーを商品として組成する取組を行う。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画観光振興班	沓澤琢也	0186-62-1251	森吉山二次アクセス運営協議会	森吉山周辺観光に係る二次アクセスの利便性の向上およびPRを行い周辺地域の観光の推進を図ることを目的とする。	300,000	負担金	①森吉山二次アクセス運営協議会の開催 4/6開催 ②森吉山観光バスの造成・販売等 販売実績 夏期 265枚 冬期 229枚	県北秋田市 森吉山二次アクセス運営協議会	県内および県外在住者(外国人旅行者含)	平成28年4月1日	観光バスの販売実績が昨年度の403枚から今年度494枚と前年度比+23%の増加の増加となった。	今後増加が予想される外国人観光客への効果的な周知が課題。 二次アクセスガイドの英語版、中国語版を発行していく。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画観光振興班	櫻井慎也	0186-62-1251	伊勢堂岱遺跡PR事業	「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」のひとつとして、世界文化遺産登録を目指す取り組みに協力し、伊勢堂岱遺跡をPRする。	99,360	委託・直営	①ロールアップバナーの作成 ②ロールアップバナーの展示 平成28年度展示実績 1回目 5/16-30 2回目 8/23-30 3回目 12/26-1/10	県	県内及び県外在住者	平成28年4月1日	2台のロールアップバナーのうち1台を空港のロビーに展示、もう一台を北秋田市の市民ふれあい施設「コムコム」に常設し、地元意識の向上を図った。	PRがより効果的な地域での展示を行う必要がある。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画観光振興班	那須あかね	0186-62-1251	大館北秋田地域イメージアップ発信事業	地域の観光情報を県内外に広く発信し、当地域への観光客の増加を図ることを目的とする。	631,851	委託・直営	①エージェント訪問事業 ②観光情報発信事業	県	県内及び県外在住者	平成28年4月1日	①旅行エージェント、メディアを訪問することにより地域の観光の売り込みと、記事掲載等につながった。 ②県内向けメディア媒体で観光情報を発信し、当地域への観光誘客と認知度の向上に資することとなった。	①具体的な売り込み方法や、ターゲットの選定が必要。 ②終了
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画観光振興班	沓澤琢也	0186-62-1251	外国人旅行者受入強化事業	①外国人旅行者を取り込むべく研修会を開催し地域の観光事業者の外国人受け入れ能力の強化を図る。 ②留学生を対象とした実証ツアーを実施し、外国人旅行者のニーズや課題を検証する。	474,755	委託・直営	①外国人受け入れ研修会の開催 1 H28.12.8 参加者 40名 2 H29.2.21 参加者 25名 ②留学生を活用したインバウンド観光の実証ツアーの実施 H29.2.3 参加者4名	県	①管内観光関係者 ②留学生	平成28年4月1日	①研修会の実施により外国人旅行者受入に係るスキルアップにつながった。 ②モニターツアー参加者による評価により改善点を見いだすことができた。	①研修会の内容を多様化し、管内観光事業者の外国人旅行者受入のさらなるスキルアップを図る。 ②モニターツアーから得ることができた課題を検証し、外国人旅行者に資するツールの開発につなげる。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画観光振興班	那須あかね	0186-62-1251	近隣県等観光誘客促進事業	大館・北秋田地域の観光情報を発信し、交流人口の拡大を目的とする。	605,691	直営	観光PRイベント等の実施 ①28年8月1日～2日 花輪SA(鹿角市) ②28年9月22日 オガール紫波(岩手県) ③28年11月19日～20日 ほほろーど(秋田市)(チャレンジマルシェ) ④29年3月12日～14日 蔦屋函館店(北海道) ⑤29年3月18日～19日 有楽町駅前広場(東京都)	県	県内及び圏外在住者	平成28年4月1日	県内外(秋田市・鹿角市・岩手県・函館市・首都圏等)で観光PRを実施し、当地域の認知度の向上と誘客促進に繋がった。	より効果的な地域でのPR方法を検討する必要がある。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び取組方向
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画観光振興班	櫻井慎也	0186-62-1251	おいしい大館北秋肉にく情報発信事業	地場肉を対象にスタンプラリーを実施し、食の魅力の発信と観光客の誘客を図る。	714,502	委託・直営	大館市、北秋田市、上小阿仁村、能代市を対象にスタンプラリーを実施。計24店舗が参加。実施期間は9/17～12/11まで。	県	県内及び県外在住者	平成28年4月1日	昨年度より多くの応募者数を記録(1370名)。多数の人に参加店舗のメニューを食していただいた。	全体的に参加者を多く獲得できたが、店舗によっては応募数が少なく、より効果的なPRを展開する必要がある。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画観光振興班	那須あかね	0186-62-1251	上小阿仁村食農観丸ごと推進協議会事業	村の持つ食農観の素材を活用することで、村の活性化と交流人口の拡大を目的とする。	800,000	負担金	①誘客促進、受入体制構築 29年2月12日 地域資源学習会 案内人1人、小学生・引率教員 ②食農観連携事業 29年2月1日 そば・エゴマ講習会 19人 29年2月8日 青果物栽培講習会 ③ご当地グルメ秋まつりを実施 28年9月17日～18日 道の駅かみこあに 来場者数 8,300人	県 上小阿仁村 上小阿仁村食農観丸ごと推進協議会	県内及び県外在住者	平成28年4月1日	エゴマ、八木沢そばといった新たな特産品化に向けた動きがあった。グルメまつりでは来場者が8,300人と、多数の人に食の情報発信を行った。	受入体制の組織化の啓発、集住施設を活用した体験メニューの確立、食農分野の強化、及び食の情報発信の強化
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
農林部	畠山鉄也	農業振興普及課	担い手・経営班	泉 誠	0186-62-1835	「えだまめのまち大館」推進事業	枝豆の生産拡大とPRを図るとともに、地元産の資材を用いたプレミアム商品の開発により、有利販売を図る。 併せて、生産者の所得向上と栽培面積の増加をめざす。	389,550	委託直営	①夏豆・秋豆の販売促進活動 ・市内量販店で実施 ②プレミアム枝豆の食味分析 ・4カ所で食味分析 ③えだまめスイーツスタンプラリーの実施 ・大館圏域産業祭 ・肉の博覧会inおおだて	県	大館市えだまめ産地育成研究会	平成28年4月1日	・研究会とは別に、大館市商工会議所等で構成するえだまめのまち大館連絡協議会が発足し、「えだまめモナカ」の製品化などにつながった。 ・園芸メカ団地事業の実施など、えだまめを用いた大館市の知名度は向上している。	えだまめのまちとしてのイメージは向上しているが、生産現場での品質向上や有利販売、地元消費拡大などに取り組む必要がある。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
農林部	畠山鉄也	農業振興普及課	企画・振興班	亀山博昭	0186-62-3950	新どじょう産地形成支援事業	農業を基幹とする北秋田地域において、どじょう養殖の産業化をめざす事業所が現れており、管内の新たな産地候補として養殖技術の確立に向けた取組やその市場性などを調査・支援する。	171,639	直営	①生産者協議会の活動支援 ・孵化技術の定着 ・冬期出荷の実験 ②養殖者の育成・技術向上 ・交流会開催 ③調査活動 ・養殖に必要な設備等の聞き取り調査 ・先進事例調査	県	秋田県どじょう生産者協議会	平成28年4月1日	・事業者が個々に実験して得られた情報を共有する場を設けることができた。 ・人工孵化技術の課題を明確化できたので、H29からのテーマとして取り組む。 ・大分県の情報をもとに、水槽飼育の可能性が見えてきた。	・基本的な飼育技術について、引き続き事業者間の情報交換を行う。 ・人工孵化技術を使うための餌の開発などについて実験を行う。 ・一定の水温を低コストで管理する技術を実証し、水槽飼育の可能性を実証する。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
農林部	畠山鉄也	農業振興普及課	産地・普及班	高橋裕貴	016-62-1835	薬草の産地化に向けた支援	薬用作物の国内需要の拡大が見込まれる中、北秋田地域の関係機関・団体、栽培農家などと連携した新たな産地化の取組を推進する。	121,339	直営	①マッチングに関する情報収集 ・薬用作物の産地化に向けた地域相談会(10/12) ②技術情報収集 ・美郷町、富山市 ③日本漢方生薬製剤協会とのマッチング要望活動	県	北秋田市薬用植物研究会	平成28年4月1日	・薬用作物の栽培に関して、一般的に知られていない条件や特殊技術などの存在が明らかになった。 ・メーカー側の取引条件が不透明であり、一般的な流通販売とは異なることが判明している。	・取引相手が製薬メーカーしかないので、栽培と取引の基本条件を確認してから産地化をめざす必要がある。 ・肥培管理期間が長い種類もあるため、生産者からの十分な理解の下で取り組む必要がある。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画・観光振興班	木村高志	0186-62-1251	地元企業人材確保支援事業	管内の中小企業は人手不足感が強まっており、県内就職率の向上と人口流出の抑制に向けた取組が必要になっている。また、地元建設業に関しては、担い手確保が喫緊の課題となっていることから、高校生の理解と関心を高めることにより地元就職率の向上と人口流出の抑制を図る。	284,480	直営	①出前講座 ・秋田北鷹 11/22 ・大館桂桜(2年生) 10/20 ・大館桂桜(1年生) 12/2 ・大館国際情報学院12/14 ②建設業現場見学会 ・秋田北鷹 10/13 ・大館桂桜 10/17 ③意見交換会 ・大館桂桜 2/10 ・秋田北鷹 2/23	県北秋田建設業協会	管内の技術系高校の生徒	平成28年4月1日	①実施各校の進路指導教諭から、早期年次で地元企業の情報を知る機会が得られ、生徒の進路選択にとって大変有意義だったと評価された。 ②、③ アンケートの結果、8割以上の生徒から「将来の進路決定の参考になった」との回答を得た。	建設業の担い手確保、地元就職率の向上、人口流出の抑制はいずれも喫緊の課題であり、継続的な取組が必要である。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画観光振興班	渡部進雄	0186-62-1251	北秋田地域結婚支援事業	結婚率の低い北秋田地域において、結婚支援に対するネットワークを構築し、結婚支援活動の活性化を図る。北秋田地域で結婚支援活動を行ってきた関係団体や多くの独身従業員を抱える企業・行政などと連携し、結婚を希望する人のマッチングの機会(イベント等)を設けるなどの取組を行う。	150,000	直営	①婚活イベントの開催 月日:平成28年11月19日 会場:北秋田市耕ホール 参加者:男19名、女19名、計38名 ②結婚支援センターの広報活動 結婚支援センター主催事業への協力、広報物の配布等	県	一般県民	平成28年4月1日	①婚活イベントは、当初予定の30名を超える参加となり、アンケートでは次年度の開催を望む声が多数寄せられる程好評だった。 ②企業訪問時等に結婚支援センターの資料を配布することにより、PRが図られた。	次年度以降も婚活イベントを開催し、結婚支援及び少子化対策に取り組む。 また、結婚支援センターのPRにも引き続き取り組む。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画観光振興班	渡部進雄	0186-62-1251	移住相談員・定住サポーター支援事業	移住定住対策はあきた未来総合戦略において柱の1つとされているが、行政の取組は緒に就いたばかりである。市村では移住者へのサポートを行うため、移住相談員や定住サポーター等を配置することとしているが、彼らがお互いに感じている課題等について話し合い、情報を共有する場を設けることで今後の取組に結びつける。	35,000	直営	市町村等の関係機関を訪問し、移住相談員及び定住サポーターの養成状況を確認	県	移住相談員 定住サポーター	平成28年4月1日	各市町村とも、移住相談員や定住サポーターの養成が進んでおらず、意見交換会は実施できなかった。	次年度以降、市町村の状況を把握して、移住相談員や定住サポーターの意見交換会の開催の可能性を探る。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画観光振興班	渡部美月	0186-62-1251	地域コミュニティ活性化事業	人口減少、少子高齢化が進行している管内で、元気な地域づくりに取り組む住民らによる事例発表や交流の場を設け、地域活性化の気運の醸成を図る。	139,059	直営	北秋田地域“げんき”集落交流会の開催。 月日:平成28年11月13日(日) 場所:大館市比内公民館 参加者:約130名	県大館市北秋田市上小阿仁村	一般県民	平成28年4月1日	普段、交流の無い複数の集落が一堂に会し、身近な団体の積極的な活動を紹介しあい、意見交換を行うことで、新たな地域活動に向けた意識啓発が出来た。	参加集落の裾野を更に広げ、先進的な活動や積極的な地域づくりに取り組む住民らによる事例発表や交流会を実施し、地域コミュニティ活性化の気運を醸成していく。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
総務企画部	渡辺哲也	地域企画課	企画・観光振興班	木村高志	0186-62-1251	地域防災力強化事業	防災関係機関のネットワークを強化し、自主防災組織リーダー研修を通じて地域住民の防災意識の向上を測る必要がある。	284,480	直営	①北秋田地域防災担当課長連絡会議(H28.6.27) ②大館・北秋田地域防災関係機関・ボランティア等ネットワーク会議(H28.9.28) ③自主防災組織リーダー研修(H29.2.1) 61名	県大館市北秋田市上小阿仁村	県民 (自主防災組織リーダー等)	平成28年4月1日	自主防災組織リーダー研修には61名の参加があり、専門家による講演、自治体、消防等からの防災関連情報の提供等を行い、知識、技能を高め、地域防災力の向上を図ることができた。	地域の自主防災組織リーダーの高齢化が課題、防災意識を高め、技術を維持していくためには継続的な取組が必要。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		
建設部	佐藤秀治	企画調査課	企画監理班	畠山 正寿	0186-62-3111	北秋田まち美化活動推進事業	道路や河川等の公共空間において、快適な環境づくりを推進するとともに、地域住民のまちづくり意識及び参加意識の醸成を図るため、企業や学校、自治会等を対象にアダプトプログラムによる官民協働の取り組みを実施する。	120,000	直営	①14団体と協定締結(企業10、自治会4) ②6団体に補助金交付(企業2、自治会4) ③活動内容:清掃・美化活動(道路10、河川3、公園1)	県	企業自治会	平成28年4月1日	実施団体と協定を結び、認定書を発行したりPR看板を設置することで、美化活動への参加意欲の向上を図った。	既存の参加団体による活動の継続や、新規団体の発掘により事業の拡大を図る。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月19日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
大館福祉 環境部	相澤 寛	健康予防 課	健康・予防 班	鈴木明美	0186-52- 3952	地域に根ざした感染症対 策事業	医療機関において感染症 が発生した際に、迅速に かつ適切に感染症拡大防 止等の対策をとることが できるように、平時から保健 所と中核医療機関との協 働で研修会等を開催し、 管内医療機関の感染症 ネットワークの構築を推進 する。	214,000	直営	①感染症対策ネットワー ク推進連携会議の開催 (7月19日開催、参加者14 名) ②院内感染ラウンド実務 研修(10月4日開催、参加 者21名) ③事例検討会の開催 (11月1日開催、参加者44 名) ④地域の感染症流行状況 の把握及び情報発信	県	医療機関 社会福祉 施設等	平成28年4月1日	・平時から、関係機関によ るネットワークの構築によ り、感染症発生時には迅 速な対応の標準化を図る ことが可能となり、関係機 関のみならず、地域の安 心・安全に直接につながる こととなる。	・感染症対策ネットワー ク推進連携会議の開催、管内の 医療機関へのICD等の講師 派遣などにより、管内医療機 関の感染症対応に關しての 具体的対応技術の底上げを 図ることを目指す。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日									
鷹巣阿仁 福祉環境 部	相澤 寛	企画福祉 課	調整・障害 者班	佐藤幸生 一関 静	0186-62- 1166	健康長寿`北秋田`すこや かシルバーライフ応援事 業絵	・高齢になっても住み慣れ た地域で暮らすことができ るよう、地域で支えるまち づくりの普及啓発を図る。 ・在宅高齢者、介護関係 者等が口腔ケア等の健康 づくりを学び、高齢者の健 康度をあげ、健康寿命を 底上げする。	463,642	直営	①認知症セミナーの開催 (10月3日開催、参加者85 人) ②認知症キャラバン・メイ トフォローアップ研修会の 開催 (11月21日開催、参加者30 人) ②健康寿命アップ作戦高齢 期の口腔ケア研修会2回 (1月13日、1月18日) ③口腔ケア在宅支援検討 会(関係者意見交換) (3月16日)	県	在宅高齢 者 介護関係 者 等	平成28年4月1日	・認知症に対する正しい理 解を促進するとともに、地 域で支える体制の必要性 について啓発することがで きた。 ・口腔ケアの実際、詳細を 示し健康度別のケア、介護 現場の支援策等を提供 し、健康寿命延伸の足が かりとした。	・地域の実情に合った体制の 普及に向け、更なる啓発に取 り組むものとする。 ・市村と協働により、高齢期 の口腔機能を維持・向上させ るための取り組みを推進して いく。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日									
鷹巣阿仁 福祉環境 部	相澤 寛	環境指導 課	環境・食品 衛生班	住司浩久	0186-62- 1167	動物を通じた「いのち」を 大切にす事業	管内の小中学生を対象に 阿にくま牧場で「動物とい のちの学習会」を開催し、 動物愛護思想の普及啓発 を行うとともに、学習の場 としての利活用推進を 図っていく。	430,165	直営	①動物といのちの学習会 4回開催、117名参加 ②くまのエサ作り 5校参加 ③校長会での周知説明 会、先生を対象とした現地 説明会の開催	県	管内の小 中学生	平成28年4月1日	・学習会を通して動物愛護 思想の普及啓発及び学習 の場としての阿にくま牧場 の利活用推進に繋がった。 ・関係機関との連携を密にす ると共に、管内の学校に対 する積極的な周知により、秋 田内陸線の利活用を含めた取 り組みを行っていきたい。	
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日									
総務企画 部	渡辺哲也	地域企画 課	企画観光 振興班	櫻井慎也	0186-62- 1251	田んぼアートによる景観 づくり事業	秋田内陸線の集客力ア ップを図るため、田んぼア ートを設置する。	905,676	直営	①内陸線沿線の2会場に 田んぼアート設置 ②田植え体験モニタリン グツアー実施	県	県内及び 圏外在住 者	平成28年4月1日	①2会場に田んぼアートを 描き、誘客と地域間の交 流を図った。また車内ア ンケートの結果、アンケート 対象者中で30パーセント 以上が田んぼアートを目 的に乗車していた。 ②今年のはじめてモニタリン グツアーを実施し、13名の 参加があった(募集20 名)。	地域施策推進事業として育 て、近い将来、地域の受け皿 (組織)への移行を想定して いるが担い手が見つかって いない状況。今後は運営体制 を見直していく必要がある。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日									